

# まだまだ遠い街の復興

井口久美子（福祉16期・6次に参加）

参加予定のメンバーが突如降板。その穴埋め要員として急遽参加することになりました。

7月2日、メンバー8人とともに神戸空港から仙台へ。レンタカー2台に分乗して、一路訪問先へ向かいました。1、2日目は振興協会との合同公演で、仮設住宅や小学校などを訪問。さあ〜、3日目は、私が担当するのカレー作りです。場所は、女川町復興住宅。昨年のメニューは、水餃子にいかなごのおにぎり・たこ焼き



でしたが、今回は、自治会の希望でカレーライスに決定。朝一番、集会所の調理室へ到着すると、自治会長、婦人部の方7〜8人が既に準備を始めていました。〈わ〉の担当者3人も加わり調理開始です。にぎやかにお喋りをしながら80食を2時間半程かけて完成。「美味しい」「こくがある」と、おかわりをする人が続出です。こんなに大量の食事作りはお初でしたが、嬉しいやら、ほっとするやら…。4日目の懇親会では、自治会組織の発足に伴い住民意識が高まり、自立が進んでいることも実感できました。

もう一つ担当したのは、最終日（5日目）の第四保育所での司会、進行です。「あがり性」の私は、人前で話をするのは苦手。その上、当日行う「昔遊び」の中身を殆ど知らないということもあって、「子どもたちに分かってもらえるのか?」「メンバーの足をひっぱりはしないか」と、不安でいっぱいでした。でも、嬉しいことにそれは杞憂に終わりました。子どもたちの元気さに助けられたのでしょうか。輝く笑顔、キラキラした瞳は、いまでも心に残っています。

今回、ひよんな切っ掛けで参加しましたが、これまでマスコミ等を通じてしか知りえなかった、現地の様子や復興状況を実際に見聞きできたことは、とても貴重な経験となりました。中でも印象に残ったことは、4年を経過した今でも「建物も何にもない一面の野原」「被災した小学校は未だ中学校校舎に間借り中」などといった状況に、心の復興とは裏腹に街の復興は未だ遠いものを感じました。同じ被災者同士、何かお手伝い出来ることがあれば…との思いから始めた東北支援（交流）も、チーム派遣は6次をもって終了です。派遣はやめても培った絆を絶やさぬ道はないものか…皆さんと知恵を絞っていききたいものです。